

# 匠の街春日部かわら版

発行 ㈱コーワ  
編集 共済大学発ベンチャー  
旬かひじやごっこ

## 「ぶらり散歩」-24- 道の駅えしおか温泉 & おっきりこみ



「粉食文化にきりこめよしおかのぶらりこみ」の二つ折りパンフが気になり群馬県北群馬郡吉岡町までぶらり散歩をしに行ってきました。

吉岡町(よしおかまち)は、群馬県のほぼ中央に位置する町です。北に渋川市、東に前橋市と隣接する、榛名山の東麓に広がる利根川沿いの町です。

まずは情報収集「道の駅よしおか温泉」に向かいます。板東太郎として親しまれている利根川の清流と裾野が長く美しい赤城山を望める所にあります。隣接したケイマンパーク・グランドゴルフ場、利根川サイクリングロードなどで汗を流した後は、温泉(リバートピア吉岡)でリフレッシュ出来るのが特徴



よしおか温泉 リバートピア吉岡  
営業時間・料金表

●営業時間		
温泉	10:00~21:00 (7:00~10:00 入浴料別)	
レストラン	11:00~20:00 (ラストオーダー)	
●温泉入浴料・食事付入浴券		
種別	温泉入浴料	食事付入浴券
大人	500円	1,350円
小人・身体者	300円	
●回数券		
回数券(11回分)		
1回購入	5,000円	
3回購入	13,000円	
●個室・家族風呂(入浴料は別途)		
個室	家族風呂	
洋室1時間	1,500円	1,000円
和室1時間	1,000円	2,000円
洋室1.5時間	2,000円	1,000円
和室1.5時間	1,500円	1,000円

### 「道の駅よしおか温泉」

群馬県北群馬郡吉岡町漆原2-004  
電話 0279-54-1221

営業時間  
8時半~17時 観光案内所  
9時~18時 物産館  
10時~21時 リバートピア吉岡

道の駅スタンプブックの写真には大きな風車(風力発電所)が写っています

道の駅です。道の駅としては規模は狭い印象ですが、地元活用型の活気ある施設です。  
地元の物産品や野菜などを販売している売店とレストランが併設されています。同じ敷地内に温泉施設があり、地元の方々が賑わっています。利根川の川面を渡るさわやかな風と雄大な眺望を堪能できる露天風呂をはじめ、サウナや水風呂があります。地下300mから湧き出るアルカリ泉、慢性皮膚病、慢性婦人病、神経痛などに効果があるようです。このような施設のある滞在型の道の駅です。

敷地内には無料の足湯「コーナー」があり一休みするだけでもできます。目の前の開放感と榛名山や赤城山を見ながら気持ちよく癒されます。伊香保温泉に行くまでの休憩に立ち寄る方が多いようですが、温泉があることで、口癖の「ドライブには良い場所です。」

群馬県は、山々に囲まれている土地柄「からい風」と呼ばれる吹き降ろしがあることが知られています。この風は「土壌が良く乾き、小麦が多く採れます。そのため、群馬県民は小麦を使った「粉もの料理」、焼きまんじゅうやうどんなどが大好きで聞きます。

ですが最近撤去されてしまったそうです。道の駅スタンプの絵柄は風車で、また物産館の名前も「かざぐるま」とその名残があります。  
裏手にはブライダーが展示されており、上州らしい「風を感じるスポット」になっています。

### 「よしおかのぶらりこみ」

群馬県は、山々に囲まれている土地柄「からい風」と呼ばれる吹き降ろしがあることが知られています。この風は「土壌が良く乾き、小麦が多く採れます。そのため、群馬県民は小麦を使った「粉もの料理」、焼きまんじゅうやうどんなどが大好きで聞きます。

その「よしおかのぶらりこみ」が代表です。幅の広いもちもちとした麺が特徴で、出汁と野菜のうまみが詰まった美味しい「自慢の郷土料理」です。よしおかのぶらりこみは、旨辛の拍子麺風やカレー風などオリジナルメニューもあるおっきりこみから、昔懐かしい味のおっきりこみと様々です。店舗ごとにこだわりが異なるので、食べ比べてお好みの「おっきりこみ」を見つけたら楽しんで溢れていきます。

では、群馬が誇る郷土料理を堪能しましょう。温泉でリラックス後、リバートピア吉岡「レストラン和」さんで7種類の野菜の入った鴨肉しょうゆベースのあつさり味のおっきりこみ(下段中)をいただきました。想像以上の美味しさに、次回からはマップ5手に吉岡町の12軒の専門店を食へ歩きたくなりました。

吉岡町の12軒の専門店を掲載したおっきりこみマップ(下段左)が

ります。左のQRコードで「おっきりこみ」の魅力を紹介します。  
おっきりこみと普通の違いは、麺に塩を加えないこと。麺をゆめに入れる前にゆでないことが挙げられます。群馬風の煮込みうどんをおっきりこみと呼ぶとのこと。  
水沢つとむで有名な榛名伊香保温泉手前の街道になる吉岡町のおっきりこみ通りは、一見の価値があります。熱いので注意して楽しみましょう。



(かわら版編集室 海老原)



### 「歴史を歩く」第一三七話 石田三成の居城 佐和山城

昨年のNHK大河ドラマ「どうする家康」の山場の一つは、天下分け目の戦いと称される関ヶ原の合戦(一六〇〇年)でした。この戦いで勝利した東軍の徳川家康は覇権を確立し、後に江戸に幕府を開くことになりました(一六〇三年)。

関ヶ原の合戦で敗者となった西軍の石田三成の居城は、近江(滋賀県)の佐和山にありました。「治部少(三成)に過ぎたるものが二つあり、島の左近と佐和山の城」と評されたように、合戦で奮戦し最後を遂げた三成の家老、島左近は名だたる名將であり、佐和山城は難攻不落の名城でした。織田信長は浅井長政の支城であった佐和山城を落とすのに八か月も要しています。その後、石田三成の居城となり城郭の整備が進みましたが、関ヶ原の戦い後、東軍(徳川方)の攻撃で落城しました。



JR東海道線の車中から見た佐和山

以前、彦根で全国城サミットが開催され、その二日目に「佐和山城への探訪ツアー」があり、地元郷土史家の案内で佐和山城に登ってきました。佐和山城址はJR彦根駅の北東八百mと至近に

あり、その西麓を走るJR東海道線の車中からも眺めることができます。

佐和山(標高三三三M)への登山道は、山麓にある井伊家の菩提寺清涼寺を過ぎ北隣の龍潭寺の山門をくぐり、境内を通り抜けた所から始まります。道は急な坂道で左右に曲がりくねっており、途中の切通しを抜けると西の丸跡に、さらに急こう配の狭い崖道をたどると麓から約三五分で本丸跡に到着します。本丸跡地はかなりの広さの平坦な場所です。ここにはかつて五層の天守が威容をほこっていたといわれています。

この他、本丸に続く尾根には二の丸、三の丸、太鼓丸、法華丸などの曲輪が連なり、東側の山麓には侍屋敷が、その外側には東山道(中山道)に面して町屋など城下町が形成されていました。当時の佐和山城は近畿と東海地方を結ぶ街道を扼する軍事上の戦略拠点でした。

関ヶ原の戦い後、徳川四天王の一人、井伊直政が入城し新たに佐和山城から直線距離で一・六キロほど西に新たに大坂(豊臣)方からの守りの拠点として天下普請の城\*、彦根城を築城しました。井伊家は佐和山城の石垣等遺構を利用して彦根城を築城したため佐和山城は廃城となり、現在、往時をしのぶさすがとしてわずかに石垣の一部や土塁、曲輪の跡を残す「つわものどもが夢のあと」となっています。

\*幕府が全国の諸大名に命令して行わせた城普請をいっ。



【著者紹介】内藤 敬雄  
共済大学客員教授(副学長)、  
中央学院常務理事、松実  
教育奨励会理事、全国歴史  
研究委員会、都市銀行・国際金  
融に携わり、シンクタンクの  
コソネットを経て、大学教授に  
転身。専門は国際経済・金融  
史。著書「趣味は歴史」で、  
現在歴史探訪とエッセイ執筆  
を続ける。

2月号 Vol.302  
2024年2月20日 (火)

発行所：(株) コーワ  
発行者：広地 進  
制作・編集：(株) かいしゃごっこ  
発行日：毎月20日発行

# 読者の広場

朝日新聞と森永牛乳を皆様の笑顔のために届ける情報誌

ASA 春日部

〒344-0055  
春日部市八木崎町1-19  
☎0120-86-1637 FAX:048-761-0044  
http://www.asa-kowa.com

コーワ春日部ミルクセンター

TEL:048-753-1800 FAX:048-761-3036



## 漢字ぐるぐるパズル

漢字ぐるぐるパズル◇リストの漢字を白マスに入れて、漢字しりとりを完成させてください。リストに残った四つの漢字でできる熟語が答えです。

正解の方に抽選でプレゼント致します！  
(希望商品を2つまで書いてください)

- ① 朝日新聞 天声人語書き写しノート 5名様
- ② 森永絹ごし(こ)牛(常温保存可) 10名様
- ③ 森永充実野菜(常温保存可)3本 5名様
- ④ 森永まろやか黒酢(黒糖&りんご味)3本 5名様
- ⑤ 「春日部駅西口 リビングツルヤ」さん提供 ソーラー幸せ招き辰 金か白のどちらか1個 2名様



リスト  
屋記財真想直命料  
一家学骨食送鳥文離  
安花格具色生着筆理  
音開機散人知入予

春	告	小	台		
品	衛	放	信		
	写	正	輸	心	立
	念	目		者	定
文		合	道	場	
		行			令
内	鉛		信	産	発
		道	財		化

難易度 ★★★(上級)

先月号の答えは「合格発表」でした。クイズ応募者39名で、37名の方が正解でした。

寒	気	団	結	力	加	減	量
活	感	情	移	入	試	験	産
生	路	肩	注	意	味	場	地
学	雪	家	相	伝	深	所	直
中	吹	一	験	受	海	代	送
的	地	同	類	介	魚	理	受
心	住	居	新	一	心	人	信
良	改	種	品	食	内	機	号

合格発表

### ☆☆☆「漢字ぐるぐるパズル」クイズ解答応募先☆☆☆

ハガキに「答え」と住所・氏名をご記入の上  
〒344-0055 春日部市八木崎町1-19 (株)コーワ「漢字ぐるぐるパズル」係までコメントを添えてご応募ください。  
2月28日消印有効(当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。)



「バレンタイン」



「愚方巻き」



「水」

イラスト：あやの

### Cooking

#### 長ネギとツナのレンジ蒸し

1人分138kcal 塩分0.8g 5分

#### ●材料(2人分)

- 長ネギ.....1本
- ツナ(缶詰).....70g
- ① 鶏ガラスープのもと...小さじ1/2
- ゴマ油.....大さじ1/2
- 塩.....少々

#### 【作り方】

- ①長ネギは幅1cmの斜め切りにする。ツナは汁けをきる。
- ②耐熱ボウルに①を入れて混ぜ、①を加える。ふんわりとラップをかけ、電子レンジで2分加熱する。さっと混ぜる。

料理・市瀬悦子 撮影・木村拓

#### 当店ご購入者様へ

便利なWEBサービスを開始しました! WEBからお休みのご連絡や各種お申込みを受付けるサービスを開始しました。24時間365日ご利用いただけます。

【PC/スマホの方】 <https://www.asa-kowa.com>

☆携帯の方はこちら  
【空メール: [y@asa-kowa.com](mailto:y@asa-kowa.com)】

※件名、本文は必要ありません。

※受信制限をご利用の方は、「asa-kowa.com」からのメールを許可してください。



## お便りコーナー

◆2024年は穏やかな一年に願っていました。そうはいかない年明けになってしまいました!! 能登半島のみなさま寒い中ご苦労様です。一日も早い日常の生活がもどるよう応援いたします。  
【大枝 T.Mさん】

◆埼玉県は内陸にあり大きな災害から免れていて幸いです。海なし県ですがこのことが地震も軽く他県から軽く見られており安心度が高いと自慢できます。  
【大枝 S.Tさん】

◆義母のリモート面会の帰り、孫がおかしを買いたいというので、ふだんあまり寄らないコンビニに入った。買い物が終わりに出ると、中学生が「先生」と声をかけてきた。「えっ」と思いよく見ると小学校の教え子だった。制服を着て立派に成長した姿と、時はたっても笑顔で声をかけてくれたことがうれしかった。短い時間だったが、寒空の中、心が温まる出来事だった。  
【谷原 K.Iさん】

◆岸田さん、お辞めにならないのですか? 事あることに責任を取る。取る。何度言っただしよ。責任を取って辞めるのは今でしょ。違いますか? 岸田さんお願いします!!  
【梅田 K.Uさん】

◆正月を迎えて2週間が経ったときに、高校・大学が同じで、10年前までは年に数回会って飲んでた友人が病気で旅行してしまいました。寂しく、悲しい気持ちはまだ心に残っています。  
【豊町 T.Tさん】

◆北風と太陽の話の思い出しました。この晴天を能登の人々にも届けてあげたい。陽をいっけいあびて、元気になるっていい。  
【大沼 M.Iさん】

◆新年早々能登で大地震が発生した。関東でも発生すると報道されているが、我が家ではタンスにぶんばるくん開きトビラにガムテープか止め道具、食品棚のガラスにセロテープ...等。災害をやわらげる程度の対応している。1000点満点は無理...。  
【豊町 K.Kさん】

◆今年には北陸新幹線に乗って金沢に行ってみたいと思っていたら、お正月の大地震。被害の映像に心が痛むばかりです。  
お正月の大地震。被害の映像に心が痛むばかりです。  
買物に行き、募金箱を見付けると少額ですが入れるようにしています。こんな事くらいしか出来ない私ですが、1日も早い復興を願いながら支援していきたいです。  
【大沼 M.Nさん】

◆暖冬とは云え北西の強い風が吹くようになりまし。この季節我家近くの県道から近づくのスピードの駐車場から富士山やスカイツリーがくっきりと見えるようになります。雪を冠った富士山を見たい。スノーパターに出掛け不要不急のものを購入してしまします。やはり富士山は日本人の心の古里なのだ。あと感じます。  
【増田新田 H.Aさん】

◆昨年は世界各国の気温は史上最高となった。また海水温もい。わは海水が熱中症にかかったような状態といわれるような現象の「海洋熱波」で急激に上昇したとのこと。それが回遊魚の漁獲高に大きな影響をもたらしている。温暖化防止は緊急の問題。  
【備後西 Y.Tさん】



### いつまでも「災間」が続いてほしい

朝日新聞気仙沼支局長 山浦 正敬

7年ぶりに「3・11」を東北地方で迎えます。主に三陸地方の太平洋沿岸が大津波に襲われた東日本大震災から13年です。直後は被害と復興への動きを岩手県内で追いました。転動で被災地を離れたのが7年前の春でした。

久々に被災地に戻って感じます。防潮堤などの防災は着実に進みました。もちろん、今も行方不明の家族を捜す人、立ち直れない人がいるのは確かです。原発事故の被災地はなおさらで

す。それでも暮らしの復興は進んでいます。今の時代を「災間」と呼ぶ人たちがいます。「災害の後」ではなく、次に起こりうる災害に備えるために社会全体を見直す期間だと学会者が提唱したそうです。朝日新聞も震災企画のタイトルに使っています。

ただ、現実には待ってられません。元日の能登半島地震で、3・11以来の大津波警報が出て、実際に沿岸が津波に襲われました。家の倒壊や土砂災害などで多く

の命が失われ、災害関連死も防げませんでした。熊本や北海道の地震や中国地方などの豪雨でも、多くの犠牲が繰り返されました。たびたび「災後」に引き戻されてしまいます。それでも積み重ねていきたいのは未来への教訓です。心強いのは、若い世代の語り部活動です。かつて勤務した岩手県釜石市では小学生が、昨春に赴任した宮城県気仙沼市では中高生が、いずれも自主的に教訓を伝えようと人前で語り始めています。そんな姿を見ると切に願います。「永遠に「災間」が続いてほしい」